



## 骨髄採取後、急性の腎機能障害を発症した事例 (調査結果報告)

公益財団法人日本骨髄バンク  
理事長 齋藤 英彦

昨年11月中旬に骨髄バンクを介して骨髄提供した30歳代の女性に提供直後から、嘔気・嘔吐、下腹部痛といった症状が現れ、検査の結果、腎機能障害を認めた事例が報告されました。

日本骨髄バンクでは、調査委員会を設置し、再発防止の観点から原因等について現地調査・外部専門医の意見聴取などを行い、検討を重ねてきました。

このたび健康被害調査委員会の調査が終了しましたのでご報告します。

当該施設での自己血管理方法や採取手技等に問題はなく、血管内容血の原因を特定することはできませんでした。

また、腎機能障害については、採取前から不顕性の異常があった可能性があり、血管内容血および検査で使用した造影剤によって一過性に悪化したという結論に至りました。

なお、貧血および腎機能は採取前の状態に回復しています。

### <参考>

- ◆ 不顕性  
病気の過程が始まっているがまだ症状が表れていないこと
- ◆ 血管内容血  
血管内で赤血球が何らかの原因で壊されている状態

### <報道に際してのお願い>

- ・プライバシー保護のため、ドナーや施設についてこれ以上の情報はお伝えできませんのでご了承ください。
- ・骨髄バンクでは本件も含め、ドナーのリスク情報について情報開示に努めています。ただし、重大な事態が起こる危険性が必要以上に強調されますと、現在進行中のコーディネートがキャンセルになるなど、患者さんの生命に関わる可能性もあります。慎重な報道をお願いします。

### ■本件に関するお問い合わせ:

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部:  
坂田、折原、橋下、杉村  
電話:03-5280-8111(代表)



## 骨髄採取後、急性の腎機能障害を発症した事例 (調査結果報告)

### ■調査委員会の結論

#### 1. 自己血管理

自己血の管理や投与方法には問題なく、患者誤認もなかった。また、自己血は体外では明らかな溶血や異常は認められなかった。

#### 2. 血管内溶血

骨髄採取時には一過性の血管内溶血が起こったことが示唆されたが、溶血の明らかな原因は不明で、ドナーの何らかの素因に起因している可能性が推察された。

#### 3. 腎機能障害

腎機能障害については、元々わずかに存在していたものが、データで溶血を認めていたことから、術中に何らかの溶血が起こり、造影剤なども加わり腎機能障害が悪化した可能性が示唆された。

本調査委員会では、本症例発症の原因は特定することはできなかった。

### ■本件に関するお問い合わせ:

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部:

坂田、折原、橋下、杉村

電話:03-5280-8111(代表)